

平成19年度（2007年）事業報告

（平成19年1月1日～平成19年12月31日）

1. 試合の管理運営に関して

(1) 世界(17)、東洋太平洋(26)、日本(31)の別記タイトルマッチ及びその他合計287
興行(2,320試合)の試合管理を行う。〔別表1参照〕

(2) 選手、マネージャー、他ボクシング従事者に対する資格審査並びにライセンスの
発給。

ライセンスの発行数 5,002 (内：外国人ボクサー206名)

(内訳) ボクサー(3,089)、プロモーター(96)、クラブオーナー(268)、マネージャー
(373)、トレーナー(527)、セコンド(396)、マッチメーカー(5)、レフェリー(112)、
タイムキーパー(12)、アナウンサー(8)、ドクター(111)、進行(5)。

(3) 新人ボクサーテスト実施

受験者総数：1,094名 合格者：486名(合格率44.4%)

【内訳】東京地区：受験者652名 合格者：262名(合格率40.2%)

他4地区：受験者447名 合格者：229名(合格率51.2%)

(4) 日本ランキング決定、発表(月例)

(5) 試合役員研修会(東京地区2月14日他原則毎月、他4地区は随時)

採点基準、レフェリング(反則処置)、事故防止他。

2. 安全防護に関して

(1) ボクシング医事講習会(=トレーナー講習会)(6月11日、於・後樂園展示会場)

〔講師〕 谷 諭 コミッション Dr. (東京慈恵会医科大学・脳神経外科准教授)

「脳震盪とその繰り返し」

大槻 穰治 コミッション Dr. (東京慈恵会医科大学・救急医学講座准教授)

「インパクト(脳震盪のダメージからの回復度テスト)について」

ボクシングというスポーツにおいて避けて通れないリスクである「脳震盪」につ
いて、そのメカニズムと発症時の兆候・繰り返されることの危険性などが詳しく
講義され、適切な対処方法や重症化の予防を喚起す。他、WBC医事会議(4月
24日～28日：於メキシコ・カンクン)の報告がなされた。

(対象) 出席者：トレーナー、マネージャー、審判他関係者79名。

(2) プロボクサー講習会（10月28日、於・マイドームおおさか）

〔講師〕 安河内剛（JBC本部事務局長）

「JBCと協会の役割、マネージャーとボクサーの契約について」

枝川孝（西日本ボクシング協会 プロモーター委員長）

「契約・選手育成などについて」

【医事講習会】

藤田敏晃コミッション Dr.（大阪厚生年金病院・脳神経外科脳卒中担当部長）

「適正な減量方法や試合後のアルコール類摂取の弊害について」

【講演】

六車卓也（元WBA世界バンタム級チャンピオン・ミズノ株式会社）

「選手として、社会人としての体験談」

（対象）出席者：西日本ボクシング協会加盟ジムの所属ボクサー、クラブ・オーナー、マネージャー、トレーナー、セコンド 270名。

(3) リング事故

なし。

3. 国際交流について

(1) 国際会議に代表派遣

(a) WBA（世界ボクシング協会）第86回年次総会

（10月8日～10月14日、中国・成都 ワンジアンホテル）

協議事項:

- *WBA 会長バルト・メトサ氏（バネズエラ）の就任25周年セレモニー
- *審判委員会（ビデオ検証・採点研修）
- *ハーフポイント採点の採用を検討
- *11ラウンド制の採用を検討
- *国際審判員を評価する委員会の設立を検討
- *WBA女子フライ級タイトルマッチ
- *その他

(b) WBC（世界ボクシング評議会）第45回年次総会

（11月11日～11月17日、フィリピン・マニラ マニラホテル）

協議事項

- *審判員講習
- *WBCスクールの承認
- *コミッションによるボクサーの証明書
- *任命（レフェリーの森田健氏が審判委員に任命された）
- *マニー・パッキヤがWBCスーパーフェザー級名誉チャンピオンに
- *オープン・スコアリング・システム継続の確認
- *各階級のランキングと指名試合の決定
- *表彰（年間最優秀ボクシングコミッショナー賞受賞）

*その他

(出席者) JBC関係 : 安河内事務局次長 森田健 島川威

B・協会関係 : 本田明彦 (帝拳)、ジョー小泉 (リングジャパン)
鈴木正臣 (角海老宝石) 他

(c) OPBF (東洋太平洋ボクシング連盟) 45回年次総会
(11月12日、WBC 総会場所)

(2) その他

(a) WBA、WBC、OPBF、並びに各国コミッション関係者との交流(役員来日時随時)

(b) 海外でのタイトルマッチに役員派遣 (内訳 : WBC 5名、WBA 5、OPBF 2名)
[別表2参照]

(c) 国際問題の処理について

(3) 海外遠征並びに来日選手の各種試合契約の承認について

4. ボクシング功労者の表彰について

(1) 2006年度プロ・アマ年間優秀選手表彰式。

1月23日東京ドームホテル (2006年12月22日選考)
プロの部9部門 (8名) アマの部5部門 (6名)

(2) 2007年度プロ・アマ優秀選手選考 (12月17日)

プロの部9部門 (13名) アマの部5部門 (6名)

(3) 世界王者獲得並びに各種チャンピオンの引退、他功労表彰について。

*元東洋太平洋・日本ライト級チャンピオン 坂本博之 (角海老宝石) 引退。

*元日本ミドル級チャンピオン 板垣俊彦 (木更津グリーンベイ) 引退。

*元日本ライト級チャンピオン 久保田和樹 (相模原ヨネクラ) 引退。

*元日本スーパー・フライ級チャンピオン プロスパー松浦 (国際) 引退。

*元WBCスーパー・フライ級チャンピオン 徳山昌守 (金沢) 引退。

*元日本ミドル級チャンピオン 荒木慶大 (泉北) 引退。

*元日本フェザー級チャンピオン 大之伸くま (FUKUOKA) 引退。

(4) JBC 試合役員等功労表彰

5. 機関誌の発行について

(1) ボクシング広報 (月刊)

(2) ボクシング年鑑

6. 選手記録（戦績、診断の両記録カード）、ボクシングに関する資料の収集、作成並びに保存（継続）

7. その他

(1) (財) 日本ボクシングコミッション 第30回定例理事会・実行委員会（2月28日、後楽園飯店）

(a) 2006年度事業報告、同収支決算報告承認

(b) 役員改選

(退任)

実行委員：福留崇広氏・輪島功一氏・松尾敏郎氏・辻本章次氏

(新任)

理事：安河内剛氏（JBC本部事務局長）

実行委員：片山尚孝氏（スポーツニッポン新聞社・記者幹事）

大橋秀行氏（東日本ボクシング協会会長）

畑中清詞氏（中日本ボクシング協会会長）

金沢英雄氏（西日本ボクシング協会会長）

(c) ルール改正

- ・ 試合役員の70歳定年ルール化
- ・ 偶然の反則打による試合続行不能の場合のTD適用
- ・ 日本ランキング12位までの増設
- ・ テスト受験年齢の引き上げ（30歳未満→33歳未満）

(2) (財) 日本ボクシングコミッション定例理事会（12月7日、後楽園飯店）

(a) 2008年度事業計画

(b) 2008年度収支予算

(c) JBCルール改正

(d) 倫理委員会報告

(3) 物故者

(a) 津田博明（グリーンツダジム会長）2月5日死去（62歳）

(b) スズキ・カバト（元日本フライ級チャンピオン）2月24日死去（38歳）

(c) 吉田勇作（JBC試合役員）2月25日死去（74歳）

(d) 河合哲朗（オーキッドカワイジム会長：元日本プロボクシング協会会長）4月17日死去（68歳）

(e) 村上潤二（八王子中屋ジム：日本スーパー・フェザー級11位）6月16日死去（30歳）

(f) 吉井清（大阪帝拳ジム会長）7月17日死去（74歳）

(g) 渡辺亮（帝拳：元東洋J・ウェルター級&日本ウェルター級チャンピオン）9月

1日死去（69歳）

(h) 都築俊三郎（JBC諮問委員）9月22日死去（91歳）

(4) 紛争処理

(5) JBC/JPBA(ボクシング協会) 合同会議

女子ボクシング認可（11月20日 JBC・JPBA女子プロボクシング合同実行委員会設立）

(6) アマチュア関係者との協議

年間優秀選手表彰選考。アマチュアとの交流について。

(7) 処分

(a) 松村直人選手（明石）のライセンス3ヶ月停止（6月30日付）：試合後、担当レフェリーによる裁定を不服とし、リング上において椅子を蹴り、レフェリーに対し詰め寄るなどの行為。

(b) 半田隆基審判員（JBC関西）のライセンス2ヶ月停止（6月28日付）：6月10日に行われた 甲斐巧真（泉北）対 井上拓哉（新日本大阪）戦における、半田レフェリーの著しく妥当性を欠く判断並びに処置。

(c) 渡辺二郎氏の元WBC、WBA世界チャンピオンの資格を国内に於いて排除する。氏の3度にわたる犯罪行為は、ボクシング界の秩序と社会的信頼を著しく貶め、かつスポーツマンとして必要な遵法の精神を損なったものであり、このことはJBCルール総則に違反するもの。

(d) 戸塚貴信（グリーンツダ）マネージャーのライセンス無期限停止（7月15日）：世界タイトルマッチにおける所属選手へのファイトマネー未払い、また自らが関与する興行において招請選手一行の1名が失踪するなど適切な対応の怠り、そして反社会的な組織との関係など

(e) 水端健（大スペースK）セコンドのライセンス無期限停止（8月3日付）：自信の経営する店舗の元従業員に対し監禁・傷害事件を起こし、平成19年6月1日に逮捕後起訴処分。

(f) 大島惇弘（大スペースK：クラブオーナー・マネージャー）を厳重戒告（8月3日付）：部下の指導・監督義務違反。

(g) 金平桂一郎（協栄）クラブオーナーライセンスの3ヶ月停止（10月15日付）

：クラブオーナーとして、その監督下にある亀田史郎、亀田大毅ならびに亀田興毅に対する指導、管理責任。

(h) 亀田史郎（協栄）セコンドライセンスの無期限停止（10月15日付）：チーフセコンドとしての第一義として、当該選手に対してスポーツマンシップの理念の教導を誤った責任。 2. 試合開始前のレフェリーの注意に際し、チーフセコンドの亀田史郎が行った恫喝、威嚇行為。 3. 当該試合のチーフセコンドとして、亀田大毅選手にルール違反を惹起させる動機を作った責任。 4. 2006年10月12日及び2007年4月16日にセコンドとしての不穏当な行動に対して嚴重注意を促した経緯があるにもかかわらず、前項の行動を成した責任。

(I) 亀田大毅（協栄）ボクサーライセンスの1年間停止（10月15日付）：世界タイトルマッチに臨むにあたり、挑戦者としてその技能を発揮することなく、徒に反則と見なされる行為を頻発し、12ラウンドでは反則減点3をとられたことは世界のボクシングを冒瀆、且つ日本のボクシングにダメージを与え、また多くのボクシングファンの信頼を損ねた責任。

(J) 亀田興毅（協栄）嚴重戒告処分（10月15日付）：セコンドとして不適切な指示があった。

〔別表1〕

(1) 世界タイトルマッチ (17)

1 WBC世界スーパー・フェザー級 (1月3日 有明コロシアム)

○エドウィン・バレロ (ベネズエラ) ●ミCHEL・ロサダ (メキシコ)

2 WBC世界スーパー・フライ級 (1月3日 有明コロシアム)

○クリスチャン・ミハレス (メキシコ) ●川嶋勝重 (大橋)

3 WBA世界フライ級 (3月19日 後楽園ホール)

○坂田健史 (協栄) ●ロレンソ・パーラ (ベネズエラ)

4 WBA世界ミニマム級王座統一戦 (4月7日 後楽園ホール)

○新井田豊 (横浜光) ●高山勝成 (グリーンツダ)

5 WBA世界スーパー・フライ級 (5月3日 有明コロシアム)

○アレクサンデル・ムヨス (ベネズエラ) ●名城信男 (六島)

6 WBA世界スーパー・フェザー級 (5月3日 有明コロシアム)

○エドウィン・バレロ (ベネズエラ) ●本望信人 (角海老宝石)

7 WBC世界バンタム級 (5月3日 有明コロシアム)

○長谷川穂積 (千里馬神戸) ●シンピウエ・ベチェカ (南アフリカ)

8 WBC世界ミニマム級 (6月4日 パシフィコ横浜)

○イーグル京和 (角海老宝石) ●八重樫東 (大橋)

9 WBA世界フライ級王座統一戦 (7月1日 有明コロシアム)

○坂田健史 (協栄) ●ロベルト・バスケス (パナマ)

10 WBC世界フライ級 (7月18日 後楽園ホール)

○内藤大助 (宮田) ●ホンサクレック・ウォンゾヨカム (タイ)

11 WBC世界フェザー級 (7月21日 米ラスベガス)

○ホルヘ・リナレス (帝拳) ●オスカー・ラリオス (メキシコ)

12 WBA世界フェザー級 (8月19日 神戸ファッションマート)

○クリス・ジョン (インドネシア) ●武本在樹 (千里馬神戸)

13 WBA世界ミニマム級 (9月1日 後楽園ホール)

○新井田豊 (横浜光) ●エリベルト・ゲホン (比国)

14WB A世界スーパー・フライ級（9月24日 後楽園ホール）

○アレクサンデル・ムヨス（ベネズエラ） ●相澤国之（三迫）

15WB C世界フライ級（10月11日 有明コロシアム）

○内藤大助（宮田） ●亀田大毅（協栄）

16WB A世界フライ級（11月4日 さいたまスーパーアリーナ）

○坂田健史（協栄） ●デンカオセーン・カオウィット（タイ）

17WB C世界フェザー級（12月15日 メキシコ カンクン）

○ホルヘ・リナレス（帝拳） ●ガマリエル・ディアス（メキシコ）

(2) 東洋太平洋タイトルマッチ (26)

1 バンタム級（1月13日 後楽園ホール）

○ロリー松下（カシミ） ●マルコム・ツニャカオ（比国）

2 ライト・ヘビー級（1月30日 後楽園ホール）

○ヒース ステントン（オーストラリア） ●西澤ヨシノリ（ヨネクラ）

3 ウェルター級（2月12日 アルカニックホール・オクト）

○丸元大成（グリーンツダ） ●竹中義則（尼崎亀谷）

4 ミドル級王座決定戦（3月17日 後楽園ホール）

○佐藤幸治（帝拳） ●アダム・ベラ（オーストラリア）

5 フライ級王座決定戦（3月18日 名古屋国際会議場）

○ジョジョ・バルドン（比国） ●長縄正春（岐阜ヨコゼキ）

6 ミニマム級王座決定戦（3月18日 名古屋国際会議場）

○和賀寿和（畑中） ●チャンサックノイ・サックルンアン（タイ）

7 スーパー・バンタム級（4月1日 石川県産業展示館）

○ウェット・サックムアングレーン（タイ） ●中岸風太（カシミ）

8 バンタム級（4月1日 石川県産業展示館）

- ロリー松下 (カシミ) ●サミンヌ・ウォーウィツターノ (タイ)
- 9 スーパー・フライ級 (4月9日 後楽園ホール)
○相澤国之 (三迫) ●全鎮萬 (韓国)
- 10 ライト級 (4月23日 大阪府立体育会館第2競技場)
○ランディ・スイコ (比国) ●中川知則 (進光)
- 11 スーパー・フェザー級王座決定戦 (5月19日)
○小堀佑介 (角海老宝石) ●村上潤二 (八王子中屋)
- 12 スーパー・バンタム級 (6月3日 神戸サンボーホール)
○ウェート・サックムアングレン(タイ) ●玉越強平 (千里馬神戸)
- 13 クルーザー級 (6月11日 後楽園ホール)
○ドミニク・ベア (豪) ●高橋良輔 (金子)
- 14 ライト・フライ級 (6月24日 西成区民センター)
○ファニト・ルビリアル (比国) ●中島健 (グリーンツダ)
- 15 ウェルター級 (7月14日 アルカニックホール・オクト)
○レブ・サンティリャン (比国) ●丸元大成 (グリーンツダ)
- 16 ライト・ヘビー級 (7月17日 後楽園ホール)
○クレイジーキム (ヨネクラ) ●ヒース・ステントン (オーストラリア)
- 17 ミドル級 (8月4日 後楽園ホール)
○佐藤幸治 (帝拳) ●デビッド・コスワラ (インドネシア)
- 18 バンタム級 (8月12日 高砂市総合体育館)
○ロリー松下 (カシミ) ●三谷将之 (高砂)
- 19 フライ級 (8月19日 岐阜産業会館)
○長縄正春 (岐阜ヨコゼキ) ●ジョジョ・バルドン (比国)
- 20 スーパー・フェザー級 (9月8日 後楽園ホール)
○内山高志 (ワタナベ) ●ナデル・フセイン (豪)
- 21 フェザー級 (9月15日 後楽園ホール)
○榎洋之 (角海老宝石) ●真教杉田 (畑中)

- 22 スーパー・フライ級王座決定戦（10月6日 後楽園ホール）
 ○河野公平（ワタナベ） ●エデン・ソンソナ（比国）
- 23 スーパー・ウェルター級王座決定戦（10月29日 後楽園ホール）
 ○日高和彦（新日本木村） ●野中悠樹（尼崎）
- 24 ミニマム級（11月3日 名古屋国際会議場）
 ○和賀寿和（畑中） ●ガ・オフラチャン・シットサイトン（タイ）
- 25 スーパー・ミドル級暫定王座決定戦（11月20日 後楽園ホール）
 ○クレイジー・キム（ヨネクラ） ●ズルフィカル・アリ（フィジー）
- 26 ミドル級（12月15日 後楽園ホール）
 ○佐藤幸治（帝拳） ●小松学（ワタナベ）

(3) 日本タイトルマッチ (31)

- 1 スーパー・フェザー級王（1月6日 後楽園ホール）
 ○小堀佑介（角海老宝石） ●大之伸くま（FUKUOKA）
- 2 スーパー・フライ級（2月12日 後楽園ホール）
 ○河野公平（ワタナベ） ●菊井徹平（花形）
- 3 フェザー級（3月3日 後楽園ホール）
 ○粟生隆寛（帝拳） ●梅津宏治（ワタナベ）
- 4 ミドル級（3月25日 姫路市立中央体育館）
 ○江口啓二（姫路木下） ●氏家福太郎（新日本木村）
- 5 フライ級暫定王座決定戦（4月1日 大阪市中央公会堂）
 ○吉田健司（笹崎） ●久高寛之（グリーンツダ）
- 6 スーパー・ウェルター級（4月5日 後楽園ホール）
 ○石田順裕（金沢） ●川崎タツキ（草加有沢）
- 7 スーパー・バンタム級（4月9日 後楽園ホール）

- 下田昭文（帝拳） ●山中大輔（白井具志堅スポーツ）
- 8 スーパー・ライト級（4月14日 後楽園ホール）
○木村登勇（横浜光） ●飯田聖洲（三松スポーツ）
- 9 バンタム級（4月15日 高砂市総合体育館）
○三谷将之（高砂） ●寺嶋章太（角海老宝石）
- 10 ライト・フライ級（4月15日 島田中央体育館）
○嘉陽宗嗣（白井具志堅スポーツ） ●増田信晃（駿河）
- 11 ウェルター級（4月20日 後楽園ホール）
○湯場忠志（都城レオスポーツ） ●古川明裕（ワールド日立）
- 12 ライト級（4月21日 後楽園ホール）
○長嶋建吾（18古河） ●石井一太郎（横浜光）
- 13 ミニマム級（5月5日 後楽園ホール）
○黒木健孝（ヤマグチ土浦ジム） ●三澤照夫（帝拳）
- 14 スーパー・フェザー級（5月19日 後楽園ホール）
○小堀佑介（角海老宝石） ●村上潤二（八王子中屋）
- 15 スーパー・フライ級（6月2日 後楽園ホール）
○河野公平（ワタナベ） ●三枝健二（新開）
- 16 フライ級（7月2日 後楽園ホール）
○吉田健司（笹崎） ●小松則幸（グリーンツダ）
- 17 フェザー級（7月7日 後楽園ホール）
○粟生隆寛（帝拳） ●秋葉慶介（角海老宝石）
- 18 ミドル級（7月21日 後楽園ホール）
○江口啓二（姫路木下） ●淵上誠（八王子中屋）
- 19 スーパー・ライト級（7月21日 後楽園ホール）
○木村登勇（横浜光） ●中村徳人（相模原ヨネクラ）
- 20 スーパー・バンタム級（8月4日 後楽園ホール）
○下田昭文（帝拳） ●塩谷悠（川嶋）

- 21 ライト・フライ級（8月13日 後楽園ホール）
○嘉陽宗嗣（白井具志堅） ●大神淳二（関）
- 22 ウェルター級（8月18日 後楽園ホール）
○湯場忠志（都城レオスポーツ） ●新井雅人（18古河）
- 23 スーパー・フェザー級（9月15日 後楽園ホール）
○小堀佑介（角海老宝石） ●三浦隆司（横浜光）
- 24 ミニマム級（9月22日 つくばカピオ）
○黒木健孝（ヤマグチ土浦） ●半田友章（宇都宮）
- 25 ライト級（10月20日 後楽園ホール）
○長嶋建吾（18古河） ●リッキー ツカモト（宮田）
- 26 ミドル級（10月20日 姫路市立中央体育館）
○江口啓二（姫路木下） ●叶栄治（大阪帝拳）
- 27 フェザー級（11月3日 後楽園ホール）
○粟生隆寛（帝拳） ●上野則之（ワタナベ）
- 28 バンタム級（11月23日 神戸ファッションマート）
○三谷将之（高砂） ●菊井徹平（花形）
- 29 スーパー・バンタム級（12月1日 後楽園ホール）
○下田昭文（帝拳） ●小林秀徳（角海老宝石）
- 30 ウェルター級（12月6日 後楽園ホール）
○湯場忠志（都城レオスポーツ） ●牛若丸あきべえ（協栄）
- 31 フライ級（12月8日 後楽園ホール）
○吉田健司（笹崎） ●佐藤常二郎（角海老宝石）

〔別表2〕海外での世界タイトルマッチに役員派遣

(内訳：WBC 5名、WBA 5名、OPBF 2名)

- 1 WBCウエルター級暫定シェーン・モズリー対ルイス・コラーソ戦(2月10日 米・ラスベガス)に浦谷信彰ジャッジ。
- 2 WBCフライ級ポンサクレック・ウォンジョンカム対清水智信戦(4月6日 タイ・サラブリー)に金谷武明ジャッジ。
- 3 WBAライト・ヘビー級シルビオ・ブランコ対スティペ・ドレウス戦(4月28日 ドイツ・オーバーハウゼン)に島川威ジャッジ。
- 4 WBAスーパー・ミドル級アンソニー・マンディン対パブロ・サモラ・ニエベス戦(6月27日 オーストラリア・ゴールドコースト)に原田武夫ジャッジ。
- 5 WBAミドル級フェリックス・シュトルム対ノエ・ツリオ・ゴンザレス戦(6月30日 ドイツ・シュツットガルト)に島川威ジャッジ。
- 6 WBCライト級デビッド・ディアス対エリック・モラレス戦(8月4日 米・イリノイ州シカゴ)に浦谷信彰ジャッジ。
- 7 WBC女子ライト・フライ級タイトルマッチ(8月15日 タイ・バンコク)に安部和夫ジャッジ。
- 8 OPBFライト級ランディ・スイコ対鮫島康治(8月25日 比国・マニラ)に福地勇治ジャッジ。
- 9 OPBFスーパー・ライト級金正範対ソンナロン・ギャッシンノーイ戦(10月13日 韓国・ソウル)に浦谷信彰ジャッジ。
- 10 WBC女子スーパー・フライ級タイトルマッチ(10月19日 北朝鮮・平壤)に浦谷信彰ジャッジ。
- 11 WBAスーパー・ミドル級アンソニー・マンディン対ホセ・アルベルト・クラベロ戦(12月10日 オーストラリア・シドニー)に安河内剛スーパーバイザー
- 12 WBAライト・ヘビー級スティーブ・ドリュエズ対ダニー・グリーン戦(12月16日 オーストラリア・パース)に島川威レフェリー